



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

運動会スローガンから学んだこと

今年度の運動会のスローガンは、「気持ちを一つに 明るく最高の運動会」であった。このスローガンは、児童会での話し合いを通して子供たちが決めたものである。一人一人が「最高」の運動会にしようと、また、「最高」を味わえるようにと、当日はもちろんであるが、準備の段階から精一杯取り組んできた。

ここで、「最高」の具体的な姿や内容について考えてみたい。子供にとっての最高とは…?

- ①優勝する。 ②応援賞を取る。 ③団体種目で勝つ。
④徒競走で自分の前年度のタイムを更新する。

本校の徒競走は、一般的な順位ではなく、3年生以上は「前年度のタイムをどれだけ短縮できたか」で順位点をつけるようにしている。1位でゴールしても、順位点で最下位になる場合がある。

- ⑤応援団として、上学年として、下学年の面倒を見ながら運動会を楽しむ。等々。

我々大人(教職員や保護者)が気を付けなくてはいけないのが、また、考えなくてはいけないのが、「子供一人一人の最高は違う」ということである。どの子にも「最高」を味わわせてあげたい。(保護者であれば、「自分の子供には」となるのであろうか?) 誰もがそう思い、子供に声をかけたり、時にはアドバイスをしたりする。

そんなことを考えたときにハッとしたのである。「優勝」「応援賞」を取ることを「最高」であると捉えようと、その反対側に、「最高」を味わえない子が出てくるのである。一生懸命がんばれば、勝っても負けても最高を味わえる。また、人生、負けを知ることでもある。これは、大人の理論であり、納得できない子供がいることを忘れてはならない。

そうした時に、スローガンの「気持ちを一つに」という文言が気になる。一人一人が違うことが当たり前である現代において、「気持ちを一つに」して、一人一人の「違う最高」を学校全体で味わう、この目標は達成可能なのだろうか。

学校教育として、運動会の成功、今回で言えば、全児童のスローガンの達成を目指すときに、大切なことが大きく2つあることに気付かされた。

1つは、運動会をつくる当事者である子供たちと「目標(スローガン)」を確認することと共有することの大切さである。具体的な姿をイメージさせ、みんなでどんな運動会をつくり上げていくのか。西部小の運動会においてどのようなことを「最高」とするのか、しっかり時間をかけて子供と話し合っていくとともに、常に目標に立ち返らせる必要がある。最上位目標の確認である。(ともすると、スローガンが、ただのお飾りになってしまう場合が多い。)

2つ目は、運動会終了後に、自分たちがつくり上げた運動会を振り返る場を設け、自分(子供)の言葉で語らせ、大人が価値付けることである。(ここには、大人の、子供の姿や行動の中に価値を見出す「子供を見る目」をもつことが要求される。上っ面な誉め言葉は、子供から見透かされてしまう)このことにより、スローガン(最上位目標)が達成できたかどうかを確認し、充実感や満足感を味わわせることができる。そして、自分にとっての運動会を子供なりに意味付けしていけるようになると思う。

手前味噌ながら、今回の行事の成功のために、本校の教職員はよくやってくれた。例年になく感動の、そして、「最高」の運動会になったのは、運動会をつくり上げた子供たちの底力はもちろんのこと、本校職員や保護者の方々からの丁寧な下支えがあったことは疑いのない事実である。今回の運動会で子供の成長が見られたのはもちろんのこと、校長はじめ、教職員の学びが多くあったことは大きな収穫である。

【校長 白田 敏幸】

令和6年度 谷地西部小学校 大運動会

【スローガン ～気持ちを一つに 明るく最高の運動会～】

子供が自分たちでつくり上げた運動会。この運動会をつくるために、悩み、時にはぶつかり合って涙を流し、自分たちにとっての「最高」を目指してがんばってきました。

運動会終了後、涙を流して悔しがる子供も大勢いました。また、「何でだか分からないんですが、涙が溢れてくるんです。」と話す子供も。きっと、これまで味わったことのない感情が込み上げてきたのでしょう。見ている大人たちをも感動させてくれました。保護者の方からは、「いい運動会だった。今までで、一番よかったんじゃないですか?」と、ありがたいお言葉も頂戴しました。

天気が心配されましたが、何とかグラウンドで行うことができたこと、そして、保護者・地域の方々よりご協力いただきましたことに対しまして、心より感謝申し上げます。

堂々とした入場行進



組頭あいさつ



ニューウェーブ紅花



1・2年 でかパンリレー



児童・保護者
大玉送り



3・4年 タイフーン



全校 綱引き



5・6年 封筒の中身はなんじゃらほい



全校 まり入れ



応援合戦



応援合戦



中心となって運動会をつくった6年生



保護者 まり入れ



優勝は赤組 応援賞は白組





トライアングルコーナー

2学年 学年行事 ～自転車教室～

5月26日(日)9時30分から谷地西部小学校昇降口にて、自転車教室を行いました。

河北町の交通指導員の山崎さんと、保安員の田宮さんをお迎えして、自転車の点検、ヘルメットのかぶり方、乗るときの安全確認、とても大切な「5つの左」【①左から乗る②左側を乗る③左足をつく④左側に降りる⑤ブレーキは左からかける】等について講習をしていただきました。

その後、学校から下沢畑まで保護者の見守りの中、路上で練習しました。学区内の道路は、道が狭く上り下りも多いことに改めて気付きました。

今回学んだことを忘れずに、いつも安全に気を付けて自転車の乗ってほしいと思います。

【2学年 部長 宇野】



【人権の花植え】

6月12日(水)、人権擁護委員の方々をお迎えし、全校で植栽を行いました。活動の前に、「人権」についての話をお伺いしました。「人権」とは何か。子供たちが理解するのは難しいようです。「自分はもちろんのこと周りの人」も大事にするとともに、みんなが幸せになるために、自分は何ができるのかを考えながら生活していけるようになることを願っています。

